



UNウイメン発足記念式であいさつするミシェル・パチェレ事務局長

平等な教育の機会 の保障と差別撤廃 を一体に

活動をスタートさせた
UNウイメン

新日本婦人の会国際部長 平野恵美子

第 55 回国連女性の地位委員会（CSW55）が、2月 22 日から 3月 4 日、ニューヨークの国連本部で開催されました。今年の CSW は、優先テーマ「完全雇用とディーセント・ワークへの女性の平等なアクセスの推進を含めた、女性と女兒の教育、訓練、科学、技術へのアクセスと参加」、見直しテーマとして第 51 回 CSW の合意結論「女兒に対するあらゆる形態の差別と暴力の根絶」、新たな問題として「ジェンダー平等と持続可能な開発」、来年の CSW の優先テーマ「農山漁村女性のエンパワーメントおよび、貧困と飢餓の根絶、開発、現在の課題における役割」を中心に議論、優先テーマについての合意結論と 3 本の決議を採択しました。合意結論は最終日 4 日までに文書がまとまらず、14 日に再度会合を開き採択、3 本の決議は、「気候変動対策と戦略におけるジェンダー平等の主流化」「女性・女兒と HIV・AIDS」「パレスチナ女性の支援」です。

106 カ国・307 組織から 1351 人の NGO が参加、私は新婦人を代表して 2月 21 日の NGO 会合に出席し、22 日から 25 日まで CSW の会議を傍聴、NGO のワークショップに参加したほか、各国の女性 NGO と交流をしました。ここでは、CSW55 の特徴と、新設された UN ウイメンの発足記念式、NGO の交流を中心に報告します。

< CSW55 の特徴 >

CSW55 のテーマは、科学・技術分野に進学す

る女兒を増やし雇用に結びつけるというものです。それは単に理数系の女子学生を増やすということではなく、高等教育まで教育の機会を保障し、学歴が仕事やキャリアに結びつき、女性のエンパワーメントや自立が進むことを目指すものです。

CSW のメンバー国は、一般演説で各国のとりくみの特徴や問題意識を述べ合い、円卓会議や対話型専門家パネルなどで、悩みを出し合ったり成果を収めている実践例に学びながら、合意文書をつくります。初日に傍聴した優先テーマに関する円卓会議では、2009 年の日本報告の審議を担当した女性差別撤廃委員会のバーバラ・ベイリー委員が助言者として参加し、女性や女兒の科学系への分野への進出、教育と雇用をどう結びつけるかという点で、現在の男性優位の社会システムの変革とステレオタイプの克服が必要で、女性差別撤廃条約など国際合意の完全実施が不可欠と発言。説得力ある提言でした。

こうした視点は採択された合意結論にも反映されていて、賃金格差の是正や平等な家事分担を可能にする施策、暴力や差別撤廃のとりくみも盛り込まれています。優先テーマ、見直しテーマ、新たな問題すべてが一体としてとりくまれるべきものだということが明確になりました。「持続可能な開発」に関連してジェンダーの視点にたった気候変動対策についての議論が、さまざまな場でおこなわれました。

なお、来年の CSW の優先テーマが「気候変動



と食料安全保障との関係での女性のエンパワメント」に変更されました。TPP 問題に直面している私たち日本の女性・NGO にとって、重要なテーマです。

< UN ウイメン～期待とこれから >

CSW55は、UN ウイメン（正式名称は「ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関」）設立後最初の、UN ウイメンが初めて事務局をつとめる CSW であり、発足記念式が国連総会の議場で行われました。国連改革の一環として出てきた女性機関統合の動きを、国連の意志決定にも参加する強力な組織をつくるチャンスにしよう、この数年来 NGO が各国政府や国連に粘り強くはたらきかけた成果でもあります。

昨年7月の国連総会で、女性関連の4機関、国連女性平和基金（UNIFEM）、女性の地位向上部（DAW）、ジェンダー問題担当事務総長特別顧問（OSAGI）、国際女性調査訓練研修所（INSTRAW）を統合し、専任の国連事務次長を責任者とする女性機関の創設が決議され、9月にはミシェル・バチエレさんが初代事務局長に就任（※）。今年1月24日、最初の執行理事会（日本も理事国）が開催され、バチエレ事務局長がビジョンと100日行動プランを提起しました。「UN ウイメンのビジョンは男性と女性が平等な機会と能力を持ち、ジェンダー平等の原則が開発、平和、安全保障の

課題にしっかりと位置づけられている世界であり」、主な目的は、各国がジェンダーに敏感な法律や政策をつくり、ジェンダー平等への誓約を果たすための成果ある戦略を充実させる力をつけることとし、5つの重点分野を打ち出しています（発足式あいさつ P43 参照）。

UN ウイメン発足後初の CSW というところで、バチエレ事務局長がどういう人で、どういう発言をするのか、私自身大きな関心を持って参加しました。インターネットでスピーチ映像を見たり、ニュースを読んだりしていましたが、やはり自分の目と耳で実感するのは全くちがいました。

21日のNGO 会合での基調講演でバチエレ事務局長が、UN ウイメンが何をめざすのか、国連のジェンダー平等のとりくみをどう引き上げるのか、具体的かつ本人の本気度が伝わってくる内容で、しかも実際の女性の生活が変わらなければだめなのだ、実際の成果を上げられる戦略をたてるのだ、そして自分は現場主義をつらぬきたいと率直に語る姿に、会場のNGOは信頼をもつことができました。翌22日のCSW 開会総会では加盟国に要請したいこととして、UN ウイメンへの予算の確保や国際・地域・国内レベルで何をすべきか、政治的意思の発揮を強調し、リーダーシップを示しました。女性というだけでなく、学生運動や医師としての活動、軍政下での苦労や新しい国づくりにとりくむ政治家としての経験が大きいと感じました。

24日の発足式も、感動的でした。国連総会の議場でABCニュースのキャスター、ジュジュ・チャンが司会をつとめ、国連総会議長に続いて潘基文事務総長が「UN ウイメンを支援するためにできる限りのことをします、お金も集めます」とあいさつし会場がおおいに沸いた後、バチエレ事務局長が登場。CSWに参加中のNGOが一斉に立ち上がり拍手で迎えるなか、「UN ウイメンは4年の多大な努力の結果誕生」とNGOや女性運動の努力をたたえ、「女性もっている力を最大限活用することが政治、経済、社会のすべてに貢献すること」だと述べました（全文 P44 参照）。若い男女や各分野からのビデオ・メッセージ、NGO 代表らのあいさつのほか、UN ウイメン親善大使をつとめるニコール・キッドマンがカリフォルニ

※ミシェル・バチエレ——1951年生まれ。チリ・アジェンデ政権のもとで社会主義青年運動に参加。父親は空軍の将校だったが、クーデター後軍事政権によりアジェンデ政権に協力的だったとして投獄・拷問され、獄中で病死。バチエレさんと母親も逮捕・投獄され、釈放後オーストラリアからドイツへ。1979年に帰国し外科医・小児科医の資格を取得、民主化に力をそそぐ。民政移管後、2000年に厚生大臣、2002年にチリはもちろんラテンアメリカ初の女性国防大臣、2006年チリ初の女性大統領に。ジェンダー平等、女性の権利とエンパワメントの政策を推進。経済危機のもとで年金改革や女性と子どもの社会保護政策に予算をつけ、低所得層のための無料の保育施設の数をも3倍に増やす。

「平和をもとめるカナダ女性の声」のジャニス・オルトンさん。新国際署名のアピール文を「カナダ政府との懇談で紹介するわ」と歓迎。



アから同時中継で、同じくアカデミー賞女優でメディアにおけるジェンダー問題に取り組んでいるジーナ・デビスも登場、ミュージシャンのグラハム・ライルらによる UN ウイメンのテーマソング「ワン・ウーマン」の合唱で会場が一体となったフィナーレで終了。繰り返された「私は UN ウイメン、私たちは UN ウイメン」というフレーズが、参加者一同を自分たちがつくっていく機関なのだとの思いでひとつにしました。

しかし、UN ウイメンの活動はこれからです。設立へのはたらきかけの中心を担ってきた女性グローバルリーダーシップセンターのシャロット・バンチさんは、「UN ウイメンは国連の機関であって、私たちの声の代弁者になることはできない。どういう活動をすべきか、NGO として意見や情報提供をしていくのです」と述べています。日本は執行理事国であり、私たち日本の NGO は政府に対して UN ウイメンが成果ある活動ができるような貢献をするようはたらきかけ、国際的な場で約束したことを国内の政策や法制で具体化するよう求めていくことが必要です。

< 軍事費削減が共通の声 >

合意結論でも教育やジェンダー平等推進への予算配分の確保が強調されていますが、UN ウイメンへの十分な資金調達も含め、財源が大きな課題です。新婦人はこの間国連に提出している文書でも、軍事費削減・資金の使い方の転換を必ず指摘しています。21 日の NGO 会合の分散会で、テーマは「女兒に対する暴力」でしたが、暴力をなくすためにも軍事費をやめさせるべきという発言があったので、私は日本の米軍基地の問題と思いやり予算の話をしました。首都も含め 130 を超える基地があると聞いた参加者から驚きと怒りの声があがり、アメリカ女性は、「そんな重大な事実を今あなたから聞くまで知らなかったことを恥ずかしく思う」と述べ、ケンタッキー州で平和活動をしている女性たちは、「地域の人に知らせたい」と。日本からクリスチャンの財団の支援で参加している女子大学生 3 人も、沖縄に強い関心を持ち始めたところで、もっと学びたいと意欲的でした。

< CSW 参加の成果 >

◇韓国女性や NY 行動参加者との再会、新国際署名も

CSW は、海外の友人との貴重な再会・意見交換の場でもあります。今回は、保守政権になり南北の関係が悪化するもとで困難を抱えて活動している韓国の友人たちと再会することができました。女性平和基金で 2004 年の日本母親大会に参加以来交流している「平和をつくる女性たち」の丁京蘭さんが、CSW 中「国連安保理決議 1325」に関するワークショップを開催、当日数年ぶりに会うことができました。2006 年の新婦人主催国際シンポジウムのパネリスト鄭鉉栢（当時は韓国女性団体連合会共同代表、現在は参与連帯共同代表）さんも来ていて、この間のお互いの状況を交流しました。

2010 年 5 月の NPT 再検討会議に向けたニューヨーク行動のひとつとして新婦人がよびかけた女性交流会で発言した女性たちとも、うれしい再会。カナダのジャニス・オルトンさん、アメリカの「おばあちゃん平和旅団」のバイニー・バローズさんです。ふたりには、交流会を報道した新婦人しんぶんや DVD などをプレゼント。丁さんとこの 2 人には、2 月 15 日に発表した核兵器禁止条約の締結を求めるアピールを紹介、署名もしてもらいました。「平和な明日をめざす 9 月 11 日家族の会」のリタ・ラサルさん、婦人国際平和自由連盟 (WILPF) のピース・ウイメンプロジェクトチームのイサベル・カティングさんも賛同、署名。新国際署名の用紙と潘基文事務総長ら賛同者のメッセージ集は、1199SEIU (国際サービス労組) やピース・アクションのジュディス・ルブランさんにも届けました。

◇安保理決議 1325 の普及・活用へ

もうひとつの成果は、安保理決議 1325 採択時の議長をつとめていたアンワル・チョードリ氏がパネリストになっているワークショップに参加したことです。チョードリ氏は、この決議がめざすものは紛争下の女性の保護だけでなく、平和と安全保障の意志決定に女性が平等に参加することによって、そもそも戦争のない世界をつくることだ

と述べ、私たちの運動に大きな示唆を与えてくれました。終了後新婦人を紹介し、「日本で広く決議を普及し、発展途上国支援という狭い位置づけをしている政府の姿勢をかえたい」と話すと、その日のうちに「あなたの会の目的はとてモパワフルで気に入りました。決議普及に必要なことがあればなんでも知らせてください」といううれしい言葉とともに、ワークショップでの発言原稿と資料を送ってくれ、貴重な出会いになりました。

現在おこなわれている国連本部ビルの改修はあと数年かかる見込みで、NGOが十分に参加しきれない課題が残るものの、通行証の発行手続きが簡素化され、毎朝のNGOのブリーフィングにもCSWの議長やUNウイメンの担当者が来て情報提供をするなど、昨年からは運営上大幅な改善が見られました。UNウイメン発足式での熱気が、女性の現状変革のエネルギーになるよう、私たちもNGOとして力を尽くしていきましょう。

UNウイメン発足記念式でのあいさつ

潘基文国連事務総長



今夜は、UNウイメンのお祝いです。そして今夜は、この発足を可能にしたすべての人々に感謝のこぼれを述べるときでもあります。ビジョンをもって行動した各国政府に感謝し、私たちの献身的な国連職員、特にアーシャ＝ローズ・ミギロ副事務総長に感謝し、その粘り強いはたらきかけが成果をあげた非政府組織のみなさんに感謝します。

交渉はきびしいものでしたが、私たちはなぜUNウイメンが必要かをわかっており、勝利したのです。私とはりわけ、初代の事務局長に国際的に名高いリーダーであるミシェル・パチレレさんを得たことを誇りに思います。

UNウイメンの設立運動は、ジェンダー平等を推進し、女性をエンパワーし、性暴力の根絶を要求するより大きな国際的な動きの一環です。前進があります。ちょうど今週、コンゴの陸軍大佐が集団レイプにかかわる事件で人道に反する罪で有罪を宣告されました。

私たちはまた、健康の分野で国際連帯も目にしていきます。昨年、加盟国は「女性と子どもの健康のためのグローバル戦略」に400億ドルの出資を約束しました。今年、UNウイメンはこのグローバル戦略を世界的な現実にする手助けをします。

今夜は、祝い感謝するときですが、私たちがなぜ、UNウイメンをつくるためにそれほど一生懸命にとりくんだかを思い起こすときでもあります。私たちは、女の子だからというだけの理由で学校に行けない女の子のために、そして助けと保護を必要としている数百万の女性と女の子のために、そうしたのです。私たちは、赤ちゃんを育てている母親を含めHIVの治療を必要としている女性たちのために、そうしたのです。私たちは、役員室や国会議事堂に平等に席を持つに値する女性たちのために、そうしたのです。

これこそ、私たちがもっとも必要とされているところでUNウイメンがとりくむことなのです。たとえば、私たちは女性のシェルターを支援していますが、それは弱い立場にある女性や女の子にとって生死の境を分けるものになりえます。私たちは有害な伝統的慣習を根絶し、考え方をかえるために努力しています。私たちはすべての女の子が教育を受けられるようにするだけでなく、それを活用する機会をもてるようにとりくんでいます。

UNウイメンの誕生にとって、これほどよいタイミングはなかったでしょう。今年は国際女性デーの100周年です。私たちは一世紀に大きな発展を遂げています。しかし、道はまだ遠いです。UNウイメンは、私たちを正しい方向に向かっただけの重要な一歩へと導いてくれます。

私たちはますます多くの女性たちを、世界中で私たちの活動の中心に据えています。女性は、自分たちの家族と国が貧困から抜け出す助けができる、大黒柱です。食べ物を与える母であり、教育を奨励し次の世代を育てる指導者です。女性は平和と安定をつくる助けができる警察官であり平和の調停者です。

国連は、女性に投資をしています。そうするのが正しいことであり、賢いことだからです。おそらく、私たちができることなかでもっとも賢いことのひとつでしょう。

私は、私のエネルギーと献身の最後のひとかけらまで使って、私ができるあらゆる方法でUNウイメンを支援します。私はみなさんの期待にこたえ、女性が暴力から守られ、女の子が安全に健康で丈夫に育つことができる世界、女性と女の子を大切にその声に耳を傾ける世界のためにはたらきます。

私たちはUNウイメンです。力をあわせれば、これを実現することができます。

ミチェル・バチレ UN ウイメン事務局長



大使のみなさん、著名な同僚のみなさん、名誉ある来賓のみなさん。

ようこそ。UN ウイメンの正式な発足を宣言できることを名誉に思います。4年間にわたる多大の努力の結果、よりよい世界への希望を現実にするためのとりくみの先頭に立つグローバルな「推進者」を国連につくるという、数百万人の女性・女兒の夢が実現しました。その夢を機能する国連組織に仕上げるのに、4ヵ月かかりました。

事務総長と副事務総長、そしてその献身と尽力によって私たちをこの瞬間に導いてくださったみなさんすべてに心から感謝します。

UN ウイメンを設立するという決定は、変化の速度が遅いことへの世界的な懸念を反映しています。少女たちが学校をやめさせられ早婚を強制させられるような世界、女性の雇用の機会が限定されている世界、ジェンダーにもとづく暴力の脅威が家で、通りで、学校で、職場で日々の現実であるような世界に生きることをこれ以上、容認することはできません。

女性の権利を無視することは、人口の半数の社会的・経済的潜在能力が十分活用されていないということです。この潜在能力を開拓するために、私たちは政治的指導者、科学・技術、貿易や和平交渉者、そして企業のトップに女性をすえていかねばなりません。

事務総長が述べたように、女性のための前進を早めることは道徳的に正しいだけでなく、政治的・経済的意味においても道理にかなっていることなのです。

このことは、私たちが国について語るときも企業について語るときも同様にあてはまります。世界経済フォーラムは134カ国のジェンダー平等施策の実績を追跡していますが、ジェンダーにおける進展と国民1人当たりの国内総生産には明らかな相関関係があることを報告しています。

さらに最近の研究で、売上げ規模全米上位500社のうち女性役員の数をもっとも多い企業は、女性役員の方がより少ない企業より、53パーセント収益性が高いことがわかっています。

女性が中等教育、十分な雇用、土地などの資産へのアクセスをもつところでは、国の成長と安定が高まります。妊産婦の死亡率が低くなり、子どもの栄養状態が改善し、食糧安全保障が高まり、HIVとAIDSの危険性が低くなることを、私たちは目にしています。

私自身の経験から、もっともきびしい状況下で家族を支えている人からジェンダー問題、健康、財政、外務の大任、あるいは国家元首になる人まで、女性ができることには限界がないということをおぼろげに学びました。私たちはミレニアム開発目標を達成しようと思うなら、女性の力、女性の勤勉さ、女性の知恵を最大限活用する、いっそうの努力をしなければなりません。

これは、国や社会のひとつの集団だけの問題ではありません。全世界にかかわる問題です。私たちは、財務・通商大臣や厚生・文部大臣を含めすべての政治関係者に、私たちは権利についてのみ語っているのではなく、社会の活力、政治的安定、経済成長について語っているということをおぼろげにさせなければなりません。

UN ウイメンだけで、必要とされているすべてを行うことはできません。私たちは他の人たちがしているよい仕事にとってかわることはしません。それぞれがもつ能力すべてと比較優位を生かし、より大きな影響とより早い前進につなげます。私たち全員が、今よりもっと仕事をしなければなりません。他の人々のとりくみを結集し、調整し、活用するという役割に加えて、UN ウイメンは5つの分野に集中的に力を注ぎます。

- 1) 女性の声、リーダーシップ、参加の拡大
- 2) 女性に対する暴力の根絶
- 3) 女性の紛争解決と和平プロセスへの完全な参加の強化
- 4) 女性の経済的エンパワーメントの促進
- 5) CEDAW への報告を支援する能力含め国の計画や予算への、ジェンダー優先事項の反映の確保

私は、UN ウイメンを、共通の努力に多様な能力を集め、さまざまな国や共同体の男性と女性を結集し、ジェンダー平等に関するグローバルな対話に新しい原動力と新しいエネルギーをもたらすものにする決意です。



「イラク女性—成果と課題」のワークショップ